

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成29年11月30日
【四半期会計期間】	第44期第2四半期（自 平成29年7月21日 至 平成29年10月20日）
【会社名】	株式会社ダイサン
【英訳名】	DAISAN CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 藤田 武敏
【本店の所在の場所】	大阪市中央区南本町二丁目6番12号
【電話番号】	06（6243）6341
【事務連絡者氏名】	経営企画室 室長 多留 健二
【最寄りの連絡場所】	大阪市中央区南本町二丁目6番12号
【電話番号】	06（6243）6341
【事務連絡者氏名】	経営企画室 室長 多留 健二
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第43期 第2四半期累計期間	第44期 第2四半期累計期間	第43期
会計期間	自平成28年4月21日 至平成28年10月20日	自平成29年4月21日 至平成29年10月20日	自平成28年4月21日 至平成29年4月20日
売上高 (千円)	4,046,690	4,081,023	8,259,746
経常利益 (千円)	336,573	341,153	736,922
四半期(当期)純利益 (千円)	211,603	209,366	480,770
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	566,760	566,760	566,760
発行済株式総数 (株)	7,618,000	7,618,000	7,618,000
純資産額 (千円)	6,265,140	6,597,308	6,457,127
総資産額 (千円)	7,958,407	8,110,755	7,939,609
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	33.00	32.65	74.97
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	13	13	26
自己資本比率 (%)	78.7	81.3	81.3
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	18,322	536,683	251,285
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	119,927	264,607	222,820
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	140,175	99,461	260,234
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	1,633,992	1,816,617	1,644,003

回次	第43期 第2四半期会計期間	第44期 第2四半期会計期間
会計期間	自平成28年7月21日 至平成28年10月20日	自平成29年7月21日 至平成29年10月20日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	26.46	24.74

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 関連会社がありませんので、持分法を適用した場合の投資利益は記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国の経済は、外需主導により輸出は好調を維持し、企業収益が堅調に推移する中、設備投資は緩やかに回復いたしました。人手不足に対する懸念や地政学的リスクに対する警戒が続きました。

当社に関連の深い住宅業界については、住宅ローン金利が低位で推移し、住宅着工戸数は前年同期と比べ、ほぼ横ばいになりましたが、相続税対策を背景に好調が続いていた集合住宅などの貸家は減少に転じました。

こうした状況において、当社の施工サービス事業では、大手住宅メーカーや地場大手顧客との取引を拡大し、環境配慮型住宅への関心が高まる中、リフォーム物件の積極的な受注を進めました。また、中層・大型建築物向けの足場施工に対して営業活動の強化を図り受注を増やしました。これらにより、同事業では、前年同期と比べ、売上高、利益とも増加致しました。

製商品販売事業では、前期より進めているビケ足場及びその他仮設足場用製商品の販路開拓により、新たな販売先は順調に増加致しましたが、ビケ足場の主要な販売先での需要が伸びなかったこと、利益率の低いその他仮設足場用商品の販売割合が大幅に増加したことなどから、前年同期と比べ、売上高、利益とも減少致しました。

以上の結果、当第2四半期累計期間における売上高は4,081百万円（前年同期比0.8%増）、利益につきましては、営業利益337百万円（同3.1%増）、経常利益341百万円（同1.4%増）、四半期純利益は209百万円（同1.1%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

施工サービス事業

施工サービス事業につきましては、売上高は3,446百万円（前年同期比2.4%増）、売上総利益は1,206百万円（同21.6%増）となりました。

製商品販売事業

製商品販売事業につきましては、売上高は587百万円（前年同期比7.1%減）、売上総利益は163百万円（同6.0%減）となりました。

その他

その他につきましては、業務受託料および保険代理店収入等で構成されており、売上高は47百万円（前年同期比3.5%減）、売上総利益は26百万円（同10.8%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末と比較して172百万円増加の1,816百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果増加した資金は536百万円（前年同期は18百万円の収入）となりました。その主な要因は、税引前四半期純利益が339百万円、減価償却費が30百万円に対し、売上債権の減少額58百万円、たな卸資産の減少額26百万円、仕入債務の減少額18百万円等があったことを反映したものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果減少した資金は264百万円（前年同期は119百万円の支出）となりました。その主な要因は、有形固定資産の取得による支出149百万円、事業譲受による支出120百万円等があったことを反映したものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果減少した資金は99百万円（前年同期は140百万円の支出）となりました。その要因は、長期借入金の返済による支出16百万円、配当金の支払額82百万円があったことを反映したものであります。

(3) 財政状態について

当第2四半期会計期間末の総資産は、現金及び預金の増加172百万円、有形固定資産の増加126百万円、電子記録債権の減少143百万円等により前事業年度末に比べ171百万円増加の8,110百万円となりました。

有利子負債は長期借入金の返済等により前事業年度比16百万円減少の25百万円となりました。

純資産は、前事業年度末に比べ140百万円増加の6,597百万円となり、自己資本比率は81.3%となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期累計期間における研究開発活動の金額は24百万円であります。

なお、当第2四半期累計期間における当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営成績の現状と見直し

当第2四半期累計期間において、当社の経営成績に重要な影響を与える要因に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	26,000,000
計	26,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年10月20日)	提出日現在発行数(株) (平成29年11月30日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	7,618,000	7,618,000	東京証券取引所 (市場第二部)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式は100株であります。
計	7,618,000	7,618,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成29年7月21日～ 平成29年10月20日	-	7,618,000	-	566,760	-	649,860

(6) 【大株主の状況】

平成29年10月20日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
有限会社和顔	大阪府大阪狭山市大野台 6 丁目 6 -12	1,411	18.52
ダイサン取引先持株会	大阪市中央区南本町 2 丁目 6 -12	377	4.96
大原 春子	大阪府大阪狭山市	343	4.50
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社	東京都港区浜松町 2 丁目11- 3	314	4.12
金沢 昭枝	堺市北区	275	3.61
三浦 民子	堺市北区	268	3.52
ダイサン従業員持株会	大阪市中央区南本町 2 丁目 6 -12	247	3.25
三浦 基和	大阪府大阪狭山市	228	2.99
大阪中小企業投資育成株式会社	大阪市北区中之島 3 丁目 3 -23	200	2.63
三浦 宣子	大阪府大阪狭山市	128	1.68
計	-	3,792	49.79

(注) 上記のほか、自己株式が1,205千株あります。

(7)【議決権の状況】
【発行済株式】

平成29年10月20日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,205,100	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,411,100	64,111	同上
単元未満株式	普通株式 1,800	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	7,618,000	-	-
総株主の議決権	-	64,111	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が100株含まれております。
「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれております。

【自己株式等】

平成29年10月20日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(株)ダイサン	大阪市中央区南本町二丁目6番12号	1,205,100	-	1,205,100	15.82
計	-	1,205,100	-	1,205,100	15.82

(注)平成29年10月20日現在の自己株式は1,205,110株であります。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（平成29年7月21日から平成29年10月20日まで）及び第2四半期累計期間（平成29年4月21日から平成29年10月20日まで）に係る四半期財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】

(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年4月20日)	当第2四半期会計期間 (平成29年10月20日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,644,003	1,816,617
受取手形及び売掛金	1,372,484	1,458,005
電子記録債権	269,263	125,452
たな卸資産	529,436	502,796
賃貸用仮設材	923,376	786,803
その他	91,340	92,125
貸倒引当金	1,477	1,404
流動資産合計	4,828,426	4,780,395
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,449,594	1,449,594
その他(純額)	482,287	609,180
有形固定資産合計	1,931,881	2,058,775
無形固定資産	13,521	93,643
投資その他の資産		
投資有価証券	682,278	701,857
その他	492,186	485,088
貸倒引当金	8,685	9,005
投資その他の資産合計	1,165,779	1,177,940
固定資産合計	3,111,182	3,330,359
資産合計	7,939,609	8,110,755
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	354,332	363,421
電子記録債務	199,819	174,579
1年内返済予定の長期借入金	33,200	25,300
未払法人税等	38,614	136,692
賞与引当金	150,247	136,513
その他	511,891	491,263
流動負債合計	1,288,104	1,327,769
固定負債		
長期借入金	8,700	-
資産除去債務	63,650	76,791
その他	122,025	108,884
固定負債合計	194,376	185,676
負債合計	1,482,481	1,513,446

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年4月20日)	当第2四半期会計期間 (平成29年10月20日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	566,760	566,760
資本剰余金	649,860	649,860
利益剰余金	6,106,145	6,232,144
自己株式	918,981	918,981
株主資本合計	6,403,783	6,529,782
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	53,344	67,526
評価・換算差額等合計	53,344	67,526
純資産合計	6,457,127	6,597,308
負債純資産合計	7,939,609	8,110,755

(2)【四半期損益計算書】
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成28年4月21日 至平成28年10月20日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年4月21日 至平成29年10月20日)
売上高	4,046,690	4,081,023
売上原価	2,851,341	2,684,847
売上総利益	1,195,349	1,396,176
販売費及び一般管理費	868,077	1,058,919
営業利益	327,271	337,256
営業外収益		
受取利息	1,602	316
受取配当金	855	936
受取保険金	2,511	-
受取賃貸料	1,070	560
その他	7,053	6,390
営業外収益合計	13,093	8,203
営業外費用		
支払利息	333	182
支払保証料	264	-
減価償却費	941	947
支払手数料	679	678
その他	1,572	2,499
営業外費用合計	3,791	4,306
経常利益	336,573	341,153
特別損失		
固定資産除売却損	158	1,176
特別損失合計	158	1,176
税引前四半期純利益	336,414	339,976
法人税、住民税及び事業税	126,360	117,613
法人税等調整額	1,549	12,996
法人税等合計	124,811	130,609
四半期純利益	211,603	209,366

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成28年4月21日 至平成28年10月20日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年4月21日 至平成29年10月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	336,414	339,976
減価償却費	29,342	30,229
のれん償却額	-	4,191
貸倒引当金の増減額(は減少)	892	247
賞与引当金の増減額(は減少)	7,942	13,734
退職給付引当金の増減額(は減少)	679	779
受取利息及び受取配当金	2,457	1,252
支払利息	333	182
固定資産除売却損益(は益)	158	1,176
売上債権の増減額(は増加)	155,487	58,289
たな卸資産の増減額(は増加)	13,888	26,640
仕入債務の増減額(は減少)	94,959	18,370
その他	6,119	120,473
小計	332,786	548,830
利息及び配当金の受取額	2,414	1,297
利息の支払額	392	159
法人税等の支払額	316,486	13,285
営業活動によるキャッシュ・フロー	18,322	536,683
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の償還による収入	200,000	-
有形固定資産の取得による支出	52,189	149,203
無形固定資産の取得による支出	2,586	1,730
資産除去債務の履行による支出	-	2,703
投資有価証券の取得による支出	100,000	-
投資有価証券の売却による収入	676	661
長期預金の預入による支出	100,000	-
貸付けによる支出	3,550	1,650
貸付金の回収による収入	2,496	2,582
事業譲受による支出	-	120,000
その他	64,774	7,435
投資活動によるキャッシュ・フロー	119,927	264,607
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	16,600	16,600
社債の償還による支出	40,000	-
配当金の支払額	83,575	82,861
財務活動によるキャッシュ・フロー	140,175	99,461
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	241,780	172,614
現金及び現金同等物の期首残高	1,875,773	1,644,003
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,633,992	1,816,617

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

たな卸資産の内訳

	前事業年度 (平成29年4月20日)	当第2四半期会計期間 (平成29年10月20日)
商品及び製品	392,046千円	344,729千円
仕掛品	64,610	71,922
原材料及び貯蔵品	72,779	86,144
計	529,436	502,796

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主なものは次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成28年4月21日 至平成28年10月20日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年4月21日 至平成29年10月20日)
給与手当	324,814千円	434,426千円
賞与引当金繰入額	74,875	87,207
貸倒引当金繰入額	892	247

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に記載されている科目の金額との関係

	前第2四半期累計期間 (自平成28年4月21日 至平成28年10月20日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年4月21日 至平成29年10月20日)
現金及び預金勘定	1,433,786千円	1,816,617千円
有価証券勘定に含まれるMMF、CRF	200,205	-
現金及び現金同等物	1,633,992	1,816,617

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自平成28年4月21日 至 平成28年10月20日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月2日 取締役会	普通株式	83,367	13	平成28年4月20日	平成28年6月24日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年11月1日 取締役会	普通株式	83,367	13	平成28年10月20日	平成28年12月27日	利益剰余金

当第2四半期累計期間(自平成29年4月21日 至 平成29年10月20日)

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月1日 取締役会	普通株式	83,367	13	平成29年4月20日	平成29年6月23日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年10月31日 取締役会	普通株式	83,367	13	平成29年10月20日	平成29年12月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自平成28年4月21日 至平成28年10月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	合計
	施工 サービス事業	製商品 販売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,364,983	632,314	3,997,298	49,392	4,046,690
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	3,364,983	632,314	3,997,298	49,392	4,046,690
セグメント利益	991,600	173,604	1,165,205	30,143	1,195,349

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、業務受託料および保険代理店収入等であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の売上総利益であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自平成29年4月21日 至平成29年10月20日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	合計
	施工 サービス事業	製商品 販売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,446,003	587,376	4,033,380	47,643	4,081,023
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	3,446,003	587,376	4,033,380	47,643	4,081,023
セグメント利益	1,206,104	163,173	1,369,278	26,897	1,396,176

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、業務受託料および保険代理店収入等であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の売上総利益であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 2 四半期累計期間 (自 平成28年 4 月21日 至 平成28年10月20日)	当第 2 四半期累計期間 (自 平成29年 4 月21日 至 平成29年10月20日)
1 株当たり四半期純利益金額	33円00銭	32円65銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (千円)	211,603	209,366
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額 (千円)	211,603	209,366
普通株式の期中平均株式数 (千株)	6,412	6,412

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

平成29年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当の総額 83百万円

(ロ) 1 株当たりの金額 13円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日 平成29年12月26日

(注) 平成29年10月20日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払を行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年11月30日

株式会社ダイサン

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大村 茂 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 池田 哲雄 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ダイサンの平成29年4月21日から平成30年4月20日までの第44期事業年度の第2四半期会計期間（平成29年7月21日から平成29年10月20日まで）及び第2四半期累計期間（平成29年4月21日から平成29年10月20日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ダイサンの平成29年10月20日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。